

改善報告書

大学名称 情報科学芸術大学院大学 (評価申請年度 2014 年度)

1. 努力課題について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4. 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
	指摘事項	学位授与方針を明確に定めていないので、策定し、公表することが望まれる。
	評価当時の状況	全教員が出席する「教務委員会」や「教員ミーティング」及び教授会において、学位授与方針は随時検討しており、年度当初に行われるガイダンスにおいても学生に対して説明は行っていたが、明文化されておらず、対外的に公表も行っていなかった。
	評価後の改善状況	2014 年度中に教務委員会にて学位授与方針について改めて検討を重ねたうえで、これを明文化し、2015 年度よりシラバスならびに本学の web ページ上に公開した。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	
	1-1 「IAMAS GUIDEBOOK 2015」(P.3) 1-2 「IAMAS 公式 web ページ」 http://www.iamas.ac.jp/educational_policy/	
	<大学基準協会使用欄>	
検討所見		
改善状況に対する評定	1 2 3 4 5	

改善報告書

大学名称 情報科学芸術大学院大学 (評価申請年度 2014 年度)

1. 努力課題について

No.	種 別	内 容
2	基準項目	4. 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
	指摘事項	教育課程の編成・実施方針を明確に定めていないので、策定し、公表することが望まれる。
	評価当時の状況	全教員が出席する「教務委員会」や「教員ミーティング」及び教授会において、教育課程の編成・実施方針は随時検討しており、は随時検討しており、年度当初に行われるガイダンスにおいても学生に対して説明は行っていたが、明文化されておらず、対外的に公表も行っていなかった。
	評価後の改善状況	2014 年度中に教務委員会にて教育課程の編成・実施方針について改めて検討を重ねたうえで、これを明文化し、2015 年度よりシラバスならびに本学の web ページ上に公開した。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 2-1 「IAMAS GUIDEBOOK 2015」(P.3) ((1-1) 再掲) 2-1 「IAMAS 公式 web ページ」((1-2) 再掲) http://www.iamas.ac.jp/educational_policy/	
	＜大学基準協会使用欄＞	
	検討所見	
	改善状況に対する評定	1 2 3 4 5

改善報告書

大学名称 情報科学芸術大学院大学 (評価申請年度 2014 年度)

1. 努力課題について

No.	種 別	内 容
3	基準項目	4. 教育内容・方法・成果 (2) 教育課程・教育内容
	指摘事項	社会人の入学者が多いため、計画的な学習が可能となるような措置を検討するなど、組織的に対応するよう改善が望まれる。
	評価当時の状況	在校生に占める社会人経験者の割合は、例年3～4割程度を占めており、2013年度も4割を占めていた。一方で、企業等に籍を置きながら入学する者はいなかったため、計画的な学習を進めるうえでは、学部の卒業後に直接進学した者と社会人経験者との間で特段の差異はないと考えられたことから、組織的な対応は行っていなかった。
	評価後の改善状況	企業に在籍しながらでも進学できるようにするため、2013年度中から教務委員会で検討を重ね、2014年度より総合科目や専門科目等を火・水・金曜日に集中させ、原則週3日の通学で単位取得ができる編成とした。 また、より社会人に門戸を開くべく、社会人向けの修学期間1年間の短期在学コースの設置に向けて入学試験委員会にて検討を進め、2019年度から当該コースを設置することとなった。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	
	3-1 「IAMAS GUIDEBOOK 2014」(P.13) 3-2 「2019 情報科学芸術大学院大学メディア表現研究科(修士課程)学生募集要項 社会人短期在学コース入試」 http://www.iamas.ac.jp/guideline/#guideline	
<大学基準協会使用欄>		
検討所見		
改善状況に対する評定		1 2 3 4 5

改善報告書

大学名称 情報科学芸術大学院大学 (評価申請年度 2014年度)

1. 努力課題について

No.	種 別	内 容			
4	基準項目	4. 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法			
	指摘事項	詳細な授業計画や、学生の到達目標が明確にされていないなど、シラバスの記載に精粗があり学生が学習計画を立てる面で適当でないため、記載をより具体化するよう改善が望まれる。			
	評価当時の状況	年度当初に行うガイダンスにて授業内容は説明を行っていたものの、シラバスの記載項目や内容には科目ごとにばらつきがあった。			
	評価後の改善状況	2018年度版からは「到達目標」を明記するなど、シラバスのフォーマットを作成し、各科目の記載方法を徹底した。			
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 4-1 「シラバス (2018年度版)」 http://www.iamas.ac.jp/classes/				
<大学基準協会使用欄>					
検討所見					
改善状況に対する評定	1	2	3	4	5

改善報告書

大学名称 情報科学芸術大学院大学 (評価申請年度 2014 年度)

1. 努力課題について

No.	種 別	内 容
5	基準項目	7. 教育研究等環境
	指摘事項	研究倫理の規程については、県の職員の倫理規程を用いているが、大学の特殊性に鑑みれば十分といえないので、大学独自の倫理規程の整備が望まれる。
	評価当時の状況	法人化されていない本学において、教職員はすべて岐阜県職員であることから、県の倫理規程を適用しており、毎年これに基づいた研修を行うことで倫理意識の向上を図っていたが、大学独自の倫理規程を制定していなかった。
	評価後の改善状況	<p>県倫理規程とは別に、研究者倫理の向上を図るため、研究委員会にて 2017 年度中に大学独自の倫理規程の制定を定めることとし、同委員会にて検討を進めた結果、「情報科学芸術大学院大学研究倫理に関する規程」「情報科学芸術大学院大学における人を対象とする研究倫理規程」「情報科学芸術大学院大学における人と対象とする研究倫理審査委員会規程」「情報科学芸術大学院大学における人と対象とする研究倫理審査委員会細則」を制定し、運用を開始した。</p> <p>また、これに基づき、2018 年度には 7 月に FD 研修の実施を予定している。</p>
	<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>5-1 「情報科学芸術大学院大学研究倫理に関する規程」</p> <p>5-2 「情報科学芸術大学院大学における人を対象とする研究倫理規程」</p> <p>5-3 「情報科学芸術大学院大学における人を対象とする研究倫理審査委員会規程」</p> <p>5-4 「情報科学芸術大学院大学における人を対象とする研究倫理審査委員会細則」</p>	

<大学基準協会使用欄>					
検討所見					
改善状況に対する評定	1	2	3	4	5

改善報告書

大学名称 情報科学芸術大学院大学 (評価申請年度 2014 年度)

1. 努力課題について

No.	種 別	内 容
6	基準項目	10. 内部質保証
	指摘事項	自己点検・評価に関しては、数年に一度の周期で実施するものとされているが、その周期は具体的に定まったものでない。また、各種の検証が日常的な「教員ミーティング」等の機会に行われるにとどまり組織としての権限や手続きが明確でない面も見られる。恒常的な自己点検・評価を実施していくうえで適切ではないので、改善が望まれる。
	評価当時の状況	自己点検・評価はおおむね中間年に実施していたものの、明確に点検周期を定めてはいなかった。また、各種の検証機会として、機動的に教員ミーティングを開催していたが、権限や手続きの面で明確でない点が見られた。
	評価後の改善状況	2017 年度開催の第 1 回自己点検・評価委員会において、大学評価期間の 3 年目と 6 年目に実施する方針を確認した。 また、教員ミーティングはあくまで自由な意見交換の場と位置づけ、所管する委員会にて各種の検証を実施したのち、教授会にて報告することとした。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	
	6-1 「2017 年度第 1 回自己点検・評価委員会議事概要 (2017. 7. 27)」	
	6-2 「情報科学芸術大学院大学学内委員会規程	
	＜大学基準協会使用欄＞	
	検討所見	
	改善状況に対する評定	1 2 3 4 5